

## 第6回 授業づくりを学び合う会「4月の授業びらき」報告

- ◇ 日時 2019年3月30日（土）午前9時30分～午後4時
- ◇ 場所 むらさきかん（岡崎）
- ◇ 主催 授業研究の会・愛知サークル
- ◇ 参加 13名

新年度を目前に控えた3月末に、4月からよい学級をつくりたい、そして楽しくて質の高い授業を目指したいと考えている教師13名が岡崎に集まりました。今回も、少人数ながら真に追求する熱い思いをもった者たちの、自ら学ぼうとする会となりました。

今日のテーマ「あこがれ・否定・フラット」

### ① 国語の授業びらき

#### ○ 音読の授業「詩の音読」

アイスブレイクとして、「あ」を使った音読あそび、「あたしの あ」（谷川俊太郎）、劇団四季の口形練習を行った後、「とんび」の冒頭の歌詞2行だけを使った実習や、詩「春のうた」（草野心平）の会員の実践映像を交えた実習を行いました。

- ・意表を突いたアイスブレイクで子どもの心をつかむ。
- ・少しずつ課題を与え、いいものに変えていく。
- ・否定したことにより、子どもは変わる。
- ・「語る」「歌う」「演じる」などの表現は、「何を」という内容のイメージを深く掘り下げる。
- ・生き生きと身体全体を使って、どのように効果的に表現するかという技術。

#### ○ 読みの授業「物語の読み取り」

俳句「雪とけて村一ぱいの子ども哉」による授業展開を体験しました。

- ・「分かる」ためには「分ける」ことを教える。
- ・問題づくりをして、対立問題を言葉の意味を適用して解決する。
- ・思い込みをどれだけ否定してつぶせるか。
- ・作者（小林一茶）の情報を効果的なタイミングを狙って出したり、写真（この場合、深い雪に埋もれる信濃町）などを提示したりして情景のイメージをもたせる助けとする。

### ② 音楽・体育の授業びらき

#### ○ 歌唱の授業「歌の歌い方」

会員の授業映像「春の小川」の、指導前と指導後を見比べ子どもの変化や課題を見つけて討議した後、実際に参加者の指揮で歌い、歌「とんび」と同じように歌詞の解釈をしてイメージをもつてから再度歌うという実習をしました。

- ・歌詞の切れ目と曲の切れ目が一致しないなど、作品のもつ矛盾点を理解する。
- ・歌詞の音読をする。
- ・息を吸う。

#### ○ 体づくりの授業「体ほぐし」

会員の柔軟運動の映像と側転の映像を見てから、マット運動の実習（前まわり）をしました。

- ・体育は、自分の体をコントロールして、自分を守ることが目的。
- ・驚ぶかみの手は、体を安定させるためのもの。体を守ることにつながる。

### ○ 表現運動の授業「リズムダンス」

会員のオペレッタ映像の中から、リープターンを取り出し、指導前と指導後の変化や課題を見つけ出して討議しました。指導者は「ひざ」のばねを使うように強調していましたが、何のために膝のばねを使うか、その本質を意識していないため、上半身と下半身が連動できない運動になりました。

- ・リープターンは、小川を跳ぶ動きなので、跳ぶために膝を曲げる。
- ・踏み切る瞬間の動きを分けて移動するとよい。

### ③ 4月の学習集団づくり

前半は、グループで4月の課題や悩みを話し合ったところ、「子どもとの適度な距離感を保ちつつ、落ち着いた学級をつくりたい」や「きまりを守って、緊張感のある学級をつくりたい」など、子どものもつエネルギーをうまくコントロールしたいという願いが感じられました。

後半は、戸田先生の映像（平成6年、4年生4月初め）と資料から、戸田学級の「学級づくりの原則・方法論」のポイントを学び合いました。

#### ポイント

- 1、安心してものが言える雰囲気をつくる。
- 2、目的・課題をもって行動させる。
- 3、子どもの自覚を促す働きかけをする。
- 4、教師である自分の姿勢をつくる。
- 5、発信力（意見をもつ力・意見を表明する力）をつける。

#### 《参加者の感想》

- 戸田学級の子どもたちは、子どもたちが楽しそうである。しかも、手も挙げずにどんどん発言していて、緊張感がある。集中力がすごい。
- 4月の初めから、発言力のない子を見つけ核にしている。そして、核にした子を変化させる事実を通して、他の児童の信頼を得ている。
- 資料がとてもよく、不安からやってみたいという意欲に変わった。歌の指導に消極的だったが、解釈をして、解釈が変わると歌声が変わる事実を見せられ感動した。やる気になって、4月を迎えられる。